

いわて生活協同組合 環境活動報告書 2016年版

(2015年3月21日～2016年3月20日)

「脱原発」の方針をふまえた環境方針

環境理念

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故は私たちの生活全般にわたって深刻な影響をもたらし続けています。

電気や化石燃料が十分に供給されることを前提にした従来の考え方は根本的に変えていくことが求められています。

いわて生協は、理事会で決定した「原発をすみやかに廃止し自然エネルギーを中心としたエネルギー政策へ」の見解と方針に基づき、国に対して原発に依存しないエネルギー政策や再生可能エネルギーの急速な導入を求めます。また、自らも、原発に依存しない事業と暮らしをめざし、CO₂削減目標を持ち、再生可能エネルギーの活用・導入を積極的に推進し、従来から掲げてきた「持続可能な社会の実現」と人類共通の課題である地球温暖化防止のための活動に取り組みます。

環境方針

1. いわて生協は、東日本大震災によりくらしの価値観が大きく変わったことをふまえ、従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、積極的に知恵を込めて以下の課題に取り組みます。
 - (1) いわて生協の事業における環境負荷を減らすため、マネジメントラインを通じて、全常勤者が、日常の仕事としてPDCAサイクルをまわして継続的な改善を積み重ねていきます。
 - (2) 資源を大切にす活動を進め、組合員といっしょに資源節約とリサイクル活動をさらに強めます。またレジ袋の有料化へ向けて取り組みます。
 - (3) 常勤者・組合員それぞれが、節電と燃料の効率的使用に取り組みます。
 - (4) 産直商品、アイコープ商品の開発と利用普及や地産地消の活動をいっそう推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。
 - (5) 太陽光発電・風力発電・木質バイオマス発電をはじめ再生可能エネルギーの導入を推進します。また、施設・設備の省エネ型への更新、エネルギー効率のよい車両の導入を進めます。
 - (6) 岩手の森林を保全・育成し環境意識を高めるためコープの森づくりをすすめます。
2. 環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないよう、その予防に努めます。
3. 上記の課題に、全常勤者が主体的に取り組めるように、環境教育を実施します。
4. この環境方針と環境活動の取り組みの結果を定期的に公表し、社会的責任を果たすとともに、環境問題について社会全体の取り組みがさらに進むことへ寄与します。

制定日 2011年5月23日

改定日 2016年3月28日

いわて生活協同組合

理事長 飯塚明彦

地球温暖化防止の取り組みと結果

いわて生協の地球温暖化防止CO₂排出量削減目標

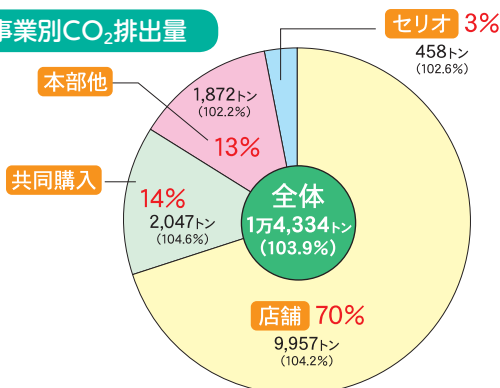
基準年	2005年度
目標	2020年までにCO ₂ (二酸化炭素)排出量を基準年に対し10%削減する

CO₂排出量は、2005年度比8.8%削減と、目標に1.2%不足

2015年度のCO₂排出量は、1万4,334トン(2005年度比8.8%減)と、2020年ビジョンで定めた「2005年度比10%」削減の目標に対し1.2%不足でした。2015年度は、全事業所での節電、太陽光発電の増設、施設設備の省エネ化をすすめてきましたが、新事業所の開設や事業伸長により、CO₂排出量は前年比103.9%に増加しました。

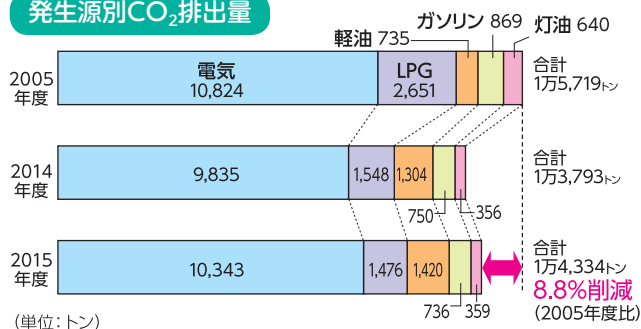
2016年度は、第7次中期計画で準備してきた風力発電、木質バイオマス発電の稼働と合わせ、日本生協連の新電力会社「㈱地球クラブ」からの電力購入も開始。これにより事業所電力の60%を再生可能エネルギーによる

事業別CO₂排出量



電源でまかなうことができます(2017年度には94%に)。原子力発電に依存せずに事業発展をめざす新たな展望が開け、CO₂排出量は、「2005年度比20%減」となる見通しです。

発生源別CO₂排出量



電気自動車7台で、CO₂排出量約21トンを削減

電気自動車は、排気ガスを排出しないので、排出ガス相当のCO₂を減らすことができます。2015年度は花北センターへ新たに3台導入し、合計7台が稼働しました。走行距離は14万3千kmで、ガソリン車と比較して約21トンのCO₂削減につながりました。



満タンの10分充電で1回300円、リンにも優れています。経済的コストで、経ガソ

2018年までに「2005年度比29%」のCO₂削減をめざして

いわて生協は、「第8次中期計画(2016~2018年度)」で、CO₂排出量を2018年までに「2005年度比29%削減」する目標を掲げて下記の取り組みを行います。

環境分野の第8次中期計画

- 地球温暖化防止と原発に依存しない事業とくらしをめざし、CO₂排出量削減と再生可能エネルギーによる創電に取り組みます。
 - CO₂排出量は、2018年に「2005年度比29%削減」をめざします。
 - 原発に依存しない事業をめざし、事業所の電力を全て再生可能エネルギーによる発電でまかなえるよう、取り組みます。
- 「アイコープ商品」「産直品」を、輸送エネルギーの節約になる環境にやさしい商品として利用を広げます。
- 廃棄物の削減とリサイクルによる再資源化をすすめ、循環型地域づくりに貢献します。
 - 容器包装の軽量化、削減、リサイクルによる再資源化、レジ袋の削減などをさらにすすめます。
 - リサイクルセンターを建設し、リサイクル品の拡大、再資源化をすすめます。
- 組合員とともに、環境にやさしい持続可能なくらしと地域の環境保全に貢献します。
 - 2つの「コープの森」への参加を広げます。
 - 電力自由化の学習をすすめ、再生可能エネルギーを電源とする電気を選ぶ組合員を増やします。

原子力発電に依存しない 事業をめざす取り組み

電気使用量は前年比105%で、 2010年度比では13%の削減に

いわて生協は、東日本大震災による原子力発電の重大事故を受けて、「原発をすみやかに廃止し、自然エネルギーを中心としたエネルギー政策への転換」を求めています。自らも、原発に依存せずに事業をすすめようと、電気使用量を「2010年度比17%削減（2010年度東北電力発電量に占める原子力発電の割合）」の目標を掲げ、取り組んできました。

2015年度の電気使用量は、2,305万kWh（前年比105.7%）と、2010年度比では13%削減に留まり、目標に4%及びませんでした。

省エネ・節電 設備改善とコスト削減委員会による進捗管理、冷設備の運用管理など、常勤者による節電の取り組み

2015年度は、セリオホール中野・みたけ、コープ西ヶ丘、コープ花巻あうるにLED照明を導入しました。また、ベルフまつぞの・牧野林・西町、マリコブドラ、コープアテルイ、コープ関コルザに節水装置を導入しました。これらにより、CO₂換算で74トンの削減を見込んでいます。

■常勤者による節電の取り組み

事業	電気使用量 既存・前年比	おもな取り組み
店舗	99.9%	・冷設備の温度管理・時間帯による停止 ・コスト削減委員会による進捗管理電
共同購入	101.4%	・事務所空調の温度管理 ・蓄冷材凍結庫の週末運転管理
本部	103.6%	・ウォームビズ・クールビズのよびかけ ・凍結防止ヒーター管理
セリオ	95.8%	・利用実態に対応した照明管理
介護・福祉	88.7%	・不要電源カットと照明等の節電

創電 太陽光発電は16事業所に増え、年間発電量は約70万kWh(150世帯相当)に

2015年度は、コープ花巻あうる、セリオホール仙北、花北センター、セリオホールみたけ（増設）に太陽光発電を設置。合計16事業所717kWとなり、2015年度発電量は69.6万kWh（一般家庭150世帯分）となりました。CO₂換算で、294トン削減に相当します。

■太陽光発電を16事業所に拡大

稼働開始年度	事業所名	設置規模(kW)
2007年度	セリオホールみたけ	10
2010年度	釜石センター	20
2011年度	セリオホールみやこ	10
2012年度	ベルフ牧野林	49
	久慈センター	20
	けせんセンター	20
2013年度	ベルフ山岸	49
	県南センター	31
	セリオホール牧野林	16
2014年度	ベルフ八幡平	99
	コープ関コルザ	80
	盛岡南センター	74
	宮古センター	25
2015年度	コープ花巻あうる	98
	セリオホール仙北	43
	花北センター	58
	セリオホールみたけ（増設）	15
合計		717



「コープ花巻あうる」屋上には98kWの太陽光発電を設置しました。

創電 風力発電と木質バイオマス発電は2016年稼働でCO₂排出量は2005年度比20%削減へ

風力発電

みやぎ生協・コープあきたと共同で2,500kWの風力発電3基（いわて生協1基、みやぎ生協2基）を秋田県に建設し、2016年10月に稼働予定です。年間発電量見込みは1,650万kWhで、約4,500世帯の電気使用量に相当します。CO₂は年間6,980トン削減されます。

公募により発電風車の愛称が「風みらい1号」に決定！400通寄せられた案の中から選ばれました。

木質バイオマス発電

野田村で建設中の森林資源を燃料にした発電事業に、いわて生協をはじめ、日本生協連・コープ東北サンネット事業連合などが参加。試験運転期間を経て2016年8月に本格稼働を開始し、一般家庭2万6,800世帯の電気使用量に相当する発電を予定しています。いわて生協は、日本生協連の新電力会社「(株)地球クラブ」を通じて野田バイオマス発電から電力を購入します。

風力発電の発電量と木質バイオマス発電からの電力購入量、自前の太陽光発電発電量を合わせると、2017年には事業所電力使用量の94%となる見通しです。

持続可能な地域社会をめざして 2015年度のおもな取り組み 1

● 組合員からのリサイクル回収量は ● 3,779トン

組合員のリサイクル活動は、2015年度は目標数値を設定して取り組み、紙パック・卵パック・ペットボトル・アルミ缶・スチール缶・共同購入チラシが増加し、トレイは微減しました。

容器や古紙など組合員参加のリサイクル回収量は3,779トン（前年比108.5%）となっています（詳細は25ページ）。

※紙パックと共同購入チラシの売却代金の一部は、コープの森づくり基金に使用しています。（23ページ参照）

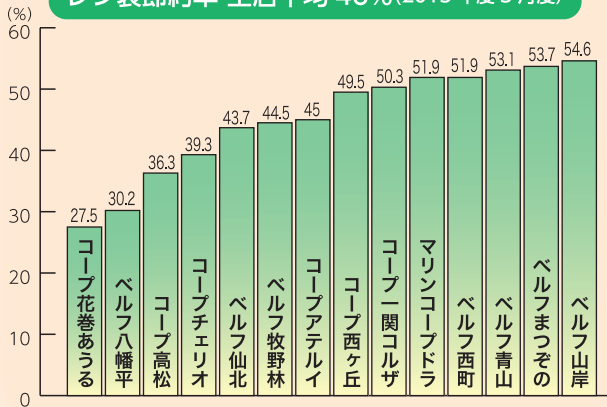
● レジ袋節約率は50.3% ● 世界環境デーには92.7%に

レジ袋節約（マイバッグ持参）率は、2015年度平均50.3%（前年度53.2%）でした。6月5日「世界環境デー」を「マイバッグ持参の日」として、レジ袋節約を目標に取り組みました。店内放送やレジでの声かけ、リサイクル（再利用）袋のご案内などにより92.7%（前年度92.5%）の方にレジ袋節約に協力いただきました。



ベルフ山岸では過去最高の99.9%を記録しました。

レジ袋節約率 全店平均 46%(2015年度3月度)



節約できたレジ袋（2015年度）	625万枚
石油節約効果推計（2015年度）	11万4,188ℓ (18ℓ缶で6,344缶)
CO ₂ 削減効果推計（2015年度）	29万9,058kg

● 古紙回収機は1店に新設し ● 5店舗で565トンを回収

2015年度、新店コープ花巻あうるに古紙回収機を新設し、設置店舗は5店舗（ベルフ仙北、コープアテルイ、コープ一関コルザ、マリンコープドラ、コープ花巻あうる）になりました。2015年度はのべ4万2千人が利用し、565トンを回収（前年比171%）しました。

● 家庭用の使用済み揚げ油 ● 約2万4千リットルを回収

使用済み揚げ油の回収量は、2万3,889リットル（前年比101.9%）でした。使用済み揚げ油を精製したBDF（バイオディーゼル燃料）の使用量は、1万3,300リットル（前年比59%）でした。これは、新しいトラックがBDFを燃料として使用できず、また、使用できる旧型トラックが8台に減ったことによります。

● 生ごみでガス発電、 ● 4トンのCO₂削減に

店舗の生ごみは、301トンがリサイクルされました。盛岡・滝沢地区店舗は小岩井農場（バイオパワーしずくいし）で発酵ガス発電や液肥の原料として74トンが活用されています。奥州市コープアテルイではオーガニック金ヶ崎で堆肥の原料として38トン、宮古市のベルフ西町と一関市のコープ一関コルザでは、動物の餌に10トンが再利用されています。その他に魚のアラや惣菜の油は飼料や肥料の原料として179トンが再利用されています。

2015年度食品リサイクル率 66.5%

食品リサイクル率は、法律で45%以上が目標です。

● 「エコショップいわて優良事例表彰」で「総合表彰」を受賞

岩手県が推進する「エコショップいわて」（認定店240店）の中でも、ごみ減量・リサイクル活動において、数値を明確にし計画的な取り組みをしていることが評価され、「総合表彰」を受賞しました。

2015年12月15日、岩手県環境生活部部长根子様より表彰授与されました。



持続可能な地域社会をめざして 2015年度のおもな取り組み②

● エコ棺ご利用による植樹は ● 6,254本に

葬祭事業「セリオ」では、葬儀の棺に環境負荷の小さい「エコ棺」をおすすめしています。この「エコ棺」は管理された森林から採取した木材を利用した特殊三層構造の紙製。木材の使用は従来の棺の3分の2、火葬時のエネルギーとCO₂排出量は半分に低減されます。また、1棺利用ごとに大きめな苗木1本がモンゴルで植樹されます（2011～2013年度は1棺利用ごとに小さな苗木を10本植樹）。

2015年度は1,097件の葬儀のうち296件（26.9%）、累計では1,405件となり、植林は6,254本となりました。

● ペットボトルキャップ回収の益金 ● 5万5,107円をユニセフ募金に

店頭で回収しているペットボトルキャップ。2015年度は、4.1トン回収し、その益金5万5,107円を日本ユニセフ協会への募金としました。

● 2か所の「コープの森づくり」に ● 270人が参加

岩手の豊かな森林を残していこうと、2010年から組合員参加で取り組んでいる「コープの森づくり」。1つ目の「コープの森inくずまき」は、6回目の植樹を2015年6月に葛巻町で実施。組合員・常勤者100人が参加しトチノキなどの苗木300本を植樹し、委託分と合わせ6年間で1万3,200本になりました。また、10月の下草刈りには37人が参加し、「まき積みコンテスト」にも参加し、森とのふれあいを深めました。

2014年度からスタートした「コープの森inまえさわ生母～国の天然記念物イロハモミジの森づくり」は、2年目を迎え、7月の下草刈りには61人が参加、11月の第2回植樹には組合員・常勤者72人が参加し、イロハモミジの苗木30本を植樹しました。



「子どもたちの成長とともに苗木も育ち、紅葉の美しい森になるように」と願いを込めて植樹した家族も。

● 「チャレンジ冬の省エネ」に ● 346人が参加

エネルギー使用の多い冬の省エネを広げようと「チャレンジ！冬の省エネ」に取り組み、346人の参加がありました。

● 「コープの森づくり基金」の収入は、 ● 企業協賛も広がり237万円と増加

2012年5月に「コープの森づくり基金」を設立し、組合員のリサイクルで回収した牛乳パックの益金と共同購入チラシ益金の一部、「苗木1本募金」、お取引先企業協賛企画による募金を積み立てています。

2015年度の収入は237万円（2014年度209万円）と増えました。みちのくコカコーラ様の協賛で、「対象飲料1本利用につき1円がコープの森募金となる企画」を実施しました。また、(株)ロッテアイス様からも、新たにご協賛いただきました。

支出は、「コープの森」が2か所になったことで238万円と増加しており、基金の拡大が必要です。

■ 2015年度「コープの森づくり基金」収支報告

収入	苗木1本募金	21万5,114円
	回収した牛乳パック・共同購入チラシ売却代金	179万 161円
	協賛金（コカコーラ様・花王様）ほか	37万 552円
計		237万5,827円
支出	植樹費用	238万3,830円
	計	238万3,830円
残		-8,003円

※コープの森づくり基金の2015年度末残高は376万2,008円となりました。



協賛企業を募集しています！

「コープの森づくり」を支えていただく企業を募集しています。ぜひご協賛ください。

持続可能な地域社会をめざして 2015年度のおもな取り組み3

「産直品」や「アイコープ商品」の利用普及は地産地消を推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。また、輸送にかかるエネルギーが少ないことからCO₂の削減にもつながります。

農産チーム 「顔とくらしの見える産直品」の普及 供給高は6億7,800万円で 過去最高に！

産地見学・交流を通じて、生産者のこだわりや苦労も実感し理解が深まった組合員が産直収穫祭でおすすめし、賑わいづくりと利用拡大につながりました。交流のようすや産地の作柄、商品特長をホームページや売り場に掲示してお知らせする取り組みも広がりました



ベルフまつぞのの個店産直「さくらの里」での収穫体験に、たくさんの子どもたちが参加しました。

水産チーム 三陸産のアイコープ商品の普及 供給高は1億7,837万円で 「産直真崎わかめ」は過去最高の利用重量に

「産直真崎わかめ40周年」の年で、組合員365人が生産者と交流。生協常勤者も908人が商品学習に参加し利用を広がった結果、年間利用重量が26.5トンと過去最高となりました。お刺身わかめ、わかめサラダなどメニュー提案も広がりました。また、新開発の「アイコープめかぶ」も好評でした。



田老町漁業では新しい加工場が完成し、衛生管理も向上しました。

畜産チーム 産直畜産品の普及 メニュー提案で 供給高は8億7,880万円で

産直アイコープ豚肉は、調理が簡単な味付け簡便商品の利用が伸びました。産直若鶏は、メニュー提案が好評で、スライス・唐揚げ用・手づくりつみれの利用が好調でした。共同購入は、「あい・ぱーく」で産直若鶏を紹介し、利用登録人数を増やすことができました。



「時間がない時に便利」と味付け簡便商品の利用が伸びています。

惣菜チーム 県内産食材を利用した惣菜の供給拡大 3億4,207万円の供給高に

県内産食材を利用した惣菜供給高は3億4,207万円（目標比102.6%）でした。店舗では毎月コンテストを実施し、県内産食材を使った商品普及に常勤者の知恵をこめて取り組みました。県産大豆の納豆を使用した納豆巻きは、パイキングや彩りセットなどが組合員さんに喜ばれ利用が伸びました。

日配・グロスアリーチーム 産直品とアイコープ商品拡大 7億6,168万円の供給に

産直品とアイコープ商品の供給高は7億6,168万円（目標比102.6%）でした。産直生協牛乳は40周年で、記念パッケージを4回作成して産直のあゆみをお知らせしました。産直さくら卵は、産直収穫祭を節目に利用を広げました。産直米は、産直交流会を3産地で開催し213人の組合員が参加、産直収穫祭でのお知らせなどで前年比112%と利用が広がりました。

環境マネジメントシステム (EMS)

いわて生協は2000年に県内流通分野で初めて環境マネジメントシステム (EMS) の国際規格ISO14001の第三者認証を取得し環境活動に取り組んできました。2009年に3回目の更新審査で認証を得ましたが、2010年下期からは独自のEMSに移行しました。EMSの仕組みを生かしながら、省エネ設備や創電などより戦略的なテーマに取り組んでいくことがねらいです。

- 内部環境監査 21人の監査員が、2016年1月12日から1月31日まで、監査員会議で抽出した事業所およびシステム全体（環境マネジメント責任者および事務局）に対し実施。重大な不適合0件、軽微な不適合6件を指摘しすべて是正しました。また改善余地（要望）4件、推奨すべき優良事例33件を見出しました。
- 環境情報 環境に関するお申し出は1件ありました。内容は、被災地でのフードバンクについてのご要望でした。いわて生協ではコープ東北と連携してフードバンクの取り組みを開始し、18件のご要望にお応えしました。有益な情報管理として店舗でのリサイクル体験や小学生への環境活動紹介の機会は45件ありました。共同購入久慈センターでも小学校の職場見学を受入れ、リサイクルの取り組みなどを紹介しました。

環境負荷とリサイクルフロー

エネルギー・資材の使用

■エネルギーの使用

電気	24,451千kWh
LPG	232,822m ³
灯油	143,903ℓ
ガソリン	317,055ℓ
軽油	541,150ℓ
車両LPG	34,363ℓ
ドライアイス	518,790kg
水	127,117m ³ (委託車両を含む)

■資材の使用

紙

コピー紙(A4版換算)……1,284万枚
 コピー紙以外の紙・3,124トン
 (共同購入・広報物など)

容器・包装材

レジ袋……43,115kg
 ポリ袋……7,887kg
 トレイ(透明トレイ含む)・157,024kg
 ラップ……26,706kg
 共同購入シッパー内袋・16,290kg

車両の使用台数 (395台)

ディーゼル・BDF車……213台
 ガソリン車……175台
 電気自動車……7台
 (2015年3月現在：委託車両は含みません)

環境への排出

■大気への排出

NO_x 排出量試算……180,164kg
 CO₂ 排出量……14,334トン (前年度13,793トン)

■廃棄物



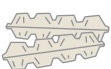
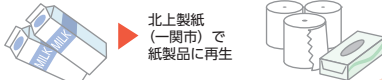
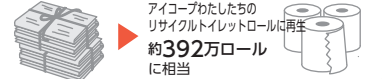


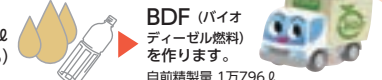
一般廃棄物……794,605kg
 廃家電の排出(家電リサイクル法)……34台

■事業活動の中で分別・再資源化しているもの

項目	2015年度	前年比
紙	84,677kg	93.1%
びん・缶	105,882kg	150.3%
発泡スチロール	64,687kg	122.7%
発泡スチロール(減容インゴット化)	43,571kg	90.9%
ダンボール	1,401,175kg	103.5%
廃食油	30,027kg	132.9%
魚アラ	160,734kg	102.4%
肉脂	36,589kg	131.5%
生ごみ	136,998kg	102.2%
共同購入シッパー内袋	10,426kg	118.4%
商品納品時フィルム	2,160kg	54.8%
合計	2,076,926kg (2,077トン)	109.3%

組合員のリサイクル活動(店舗・共同購入)

上段：回収量(前年比) 下段：枚数換算値

トレイ(発泡)	40.7トン (97.7%) 814万枚	 トレイ 1,197万枚 に再生 この他、透明トレイ、ふたが19トン回収されています。
ペットボトル	104.6トン (100.1%) 173万本	 プラスチック製品に再生
卵パック	19.7トン (108.2%) 116万枚	 プラスチック製品に再生
紙パック	52.4トン (110.9%) 157万枚	 北上製紙(一関市)で紙製品に再生
共同購入チラシ	2,925トン (102.2%)	 アイコーわたしたちのリサイクルトレットロールに再生 約392万ロールに相当
古紙	565トン (同期間比171%)	 紙製品に再生
アルミ缶スチール缶	52.6トン (116.8%)	 アルミ・鉄製品に再生
廃食油	2万3,889ℓ (102.2%)	 BDF(バイオディーゼル燃料)を作ります。 自前精製量 1万796ℓ

※業者に払い渡して再資源化した数量です。

いわて生協のリサイクルの流れ



環境活動のあゆみ 1990～2015年

1990年 (いわて生協誕生)	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックの回収リサイクルを開始 買い物袋節約スタンプ制開始 印刷用紙、コピー用紙、名刺等の再生紙への切り替え開始
1991年	<ul style="list-style-type: none"> 使用済み OCR 用紙のリサイクルを開始 食品トレイの回収開始
1992年	<ul style="list-style-type: none"> アルミ缶の回収を青山店（現ベルフ青山）で開始 朝配達牛乳のビン容器化のテスト実施
1993年	<ul style="list-style-type: none"> 朝配達牛乳で紙パックからリターナブルビン容器（720ml）へ切り替え レシート用紙が再生紙に 包装ラップを非塩ビラップに切り替える実験
1994年	<ul style="list-style-type: none"> 包装ラップを非塩ビラップに切り替え 店舗の飲料自動販売機の台数を削減（42台から20台へ） ギフトの簡易包装紙を開発使用
1995年	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルの回収リサイクルを開始 共同購入トラックにLPG（低NO_x）を導入開始
1996年	<ul style="list-style-type: none"> 共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始 注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始
1997年	<ul style="list-style-type: none"> 共同購入全支部で商品案内チラシ回収リサイクルを実施 盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定
1998年	<ul style="list-style-type: none"> 回収したペットボトル・卵パックを卵パック原料として再利用 回収した商品案内チラシを原料にトイレットペーパーを商品開発
1999年	<ul style="list-style-type: none"> アイコープ低温殺菌牛乳（200ml）でリターナブルビン容器使用 ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始
2000年	<ul style="list-style-type: none"> 県内流通業で初めてISO14001規格の外部認証取得 LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成 マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始
2001年	<ul style="list-style-type: none"> 「いわて大環境祭」に出展参加 印刷物に大豆インキを採用 遺伝子組換え原料・飼料の排除のとりくみ本格化
2002年	<ul style="list-style-type: none"> 買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更 共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル
2003年	<ul style="list-style-type: none"> 買い物袋節約率が30%を超える 奥州市コープアテルイで生ごみの堆肥化リサイクルを開始
2004年	<ul style="list-style-type: none"> 印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了
2005年	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける（全店） 「森林（もり）を守る募金」開始（以後4年間で県内環境団体へ150万円贈呈）
2006年	<ul style="list-style-type: none"> セリオホールみだけに太陽光発電1基目を導入 共同購入トラックでBDF使用開始（6台）

2007年	<ul style="list-style-type: none"> PPバンド、ストレッチフィルムなど廃プラスチックのリサイクル拡大 買い物袋節約率が45%に。50%をめざす新目標を決定 環境負荷の小さい葬儀の棺「エコ棺」導入。
2008年	<ul style="list-style-type: none"> 発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成 共同購入トラックで燃費改善のとりくみ開始 買い物袋節約率が51%となり店舗利用者の過半数の節約率を実現
2009年	<ul style="list-style-type: none"> 本部構内にBDF精製施設を設置 透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始 盛岡エリア店舗の生ごみ（食品残渣）を小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始
2010年	<ul style="list-style-type: none"> 「コープの森づくり」活動スタート。葛巻町で第1回の植樹実施 BDF使用が本格化し全センターで24台がBDFで走行 県「エコショップ」制度で「特別表彰」（模範的事業活動に対して）を受賞 3回目の更新審査合格を機にISO14001を終了。独自EMS運用へ
2011年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の使用済み揚げ油回収スタート セリオホールみやこ開設、3基目の太陽光発電導入 低炭素杯2012で特別賞受賞（震災時のBDF活用が評価された） イオングループ3社と共同で、レジ袋大幅削減に向けた提言書を、岩手県と岩手県市町村清掃協議会へ提出
2012年	<ul style="list-style-type: none"> 「コープの森づくり基金」設立 「古紙回収システム」ベルフ仙北でスタート 県「エコショップ」制度で、コープ高松が総合表彰、いわて生協全店も特別表彰を受賞 太陽光発電設置3事業所89kW
2013年	<ul style="list-style-type: none"> 3生協による風力発電共同事業に基本合意 「食品産業もったいない大賞」で審査委員長賞受賞 県「エコショップ」制度でベルフまつぞのが総合表彰 電気自動車4台を盛岡南センターに導入 奥州市での「第2のコープの森づくり」に調印 太陽光発電設置3事業所96kW
2014年	<ul style="list-style-type: none"> 「古紙回収システム」をコープアテルイ・コープ一関・コルザ・マリンコープドラに導入。 「できることからE C Oアクション賞」受賞 県「エコショップ」制度で、店舗事業が総合表彰、ベルフ牧野林が部門別表彰 野田村の木質バイオマス発電事業へ出資・参加 太陽光発電設置4事業所278kW
2015年	<ul style="list-style-type: none"> 「マイバッグ持参の日」に、レジ袋節約率92.7%と過去最高を達成 「古紙回収システム」をコープ花巻あうるに導入。 電気自動車3台を花北センターに導入。計7台に。 県「エコショップ」制度で、いわて生協が総合表彰。 太陽光発電設置4事業所214kW